

事例研究 No.02

テーマ：松下電器産業(株)「松下電器におけるユニバーサルデザインの取組み」＜支援＞ (SP06)

発表者：松下電器産業(株)総合デザインセンター情報デザイングループ

ITデザインチーム 高長 光男 氏

内容：(P P を使用して講演が行われた。概要は以下のとおり。)

ブランドイメージのキーワード

Reliability, Quality, High-Tech

松下グループのデザイン組織 と 海外におけるデザイン活動

詳細省略

最近の国内外の動向

詳細省略

ユニバーサルデザインとは

“ すべての人が快適に利用できるように環境を設計，製品を開発，サービスを提供すること ”

ユニバーサルデザインの恩恵

- ・身体的機能低下の状態にある人達にとって.....
- ・一般の人にとって.....

ユニバーサルデザインガイドブック

“ 方針編 ” と “ 手引編 ” で構成。

松下デザイン部門の取組み姿勢

- ・社会の公器としての使命感
- ・より多くのお客様に満足を提供
- ・本質追求のものづくり

松下ユニバーサルデザイン方針

あらゆる人々への心くばりを美しく形象化することによって，共に生き生きと
快適にくらせる生活の実現をめざす

ユニバーサルデザインの基本スタンス

- ・対象者の範囲
- ・開発スタンス

ユニバーサルデザインの基本要項

楽な姿勢と動作への配慮

誰もが認識できる表示と表現

簡単で理解しやすい使用方法

安全・安心への心配り

五感を駆使した新しい造形

* 上記5要項について，各社製品の具体例を紹介（詳細省略。）

ユニバーサルデザインガイドブック“手引編”の主な内容

- ・社外秘のため規定項目の概要のみ紹介

ユニバーサルデザインの現実的課題

- ・UDの定義，方向性が十分に理解されていない。
- ・“UDは障害者のためのデザイン”という意識から抜け出せない。

ユニバーサルデザインはボランティアではない。

- ・企業として採算ベースに見合う商品の提供。

これからのデザイナーの役割

- ・ユーザビリティ活動プロセス
使用状況把握 ~ 要求事項把握 ~ アイデア立案 ~ 検証 ~ 商品化

ユーザビリティ評価のポイント

- ・楽な姿勢で使えるか？
- ・取り扱いやすいか？
- ・読みやすいか？
- ・聴きやすいか？
- ・簡単に操作できるか？

「現場主義」に徹する！

気配 気配り！

心配 心配り！

質疑応答

Q：ガイドブックを起案して発行するまでの期間？

A：約1.5年

Q：ガイドブックを逸脱した場合，決裁が必要？ 拘束力は？

A：基準が含まれているので，逸脱した場合には後で問題になる。

Q：全社規格（M I S）の発行手順は？

A：内容に応じてWGを設置して規格案を検討。規格案がまとまれば，全社から選出された約20名の固定メンバーで構成された「M I S委員会」で最終審議の後，技術担当役員の決裁を経て発行。WG審議終了から規格発行までは約2か月。

Q：社内啓蒙の工夫点？

A：事業場を巡回して説明会を実施。
UD研究会（2か月に1回開催）で啓蒙。

Q：実験や研究で手法や数値を決めているようだが，実ユーザは？

A：・すべてがそうではないが，M I Sは実験や研究結果から，T M（テクニカルマニュアル）は実ユーザから導きだしている。
・テーマに応じた対象ユーザー（被験者）で，実験や調査を実施している。その結果をベースに基準化している。

* オブザーバコメント :

- ・ U D の定義がはっきりしない。 H C D も同じ。 ユーザには理解できない。
- ・ 全ての人 , 全てのユーザ.....は ?
- ・ ターゲットユーザを決めて取組む必要がある。
- ・ ユーザ Requirement (マーケット) を創りだしていかなければならない。
- ・ ユーザに気づいてもらうことが大切。
- ・ 良くした点を P R してマーケットを創っていく必要がある。
- ・ データのハンドルの仕方が難しい。 “ 方針編 ” , “ 手引編 ” に加えて “ プロセス編 ” のようなものがあれば , 一層よいのでは ?

以 上